平成３０年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王南小学校

■この調査は・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・

対象が小６と中３、教科も国語／算数・数学／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（理科は、３年に１度の調査となります。）

１　調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

・国語 AB，算数 AB，理科の平均正答率は，おしなべて全国を下回っています。
・国語 A 問題では，漢字の読み書きについては，全国との差があまりないものもあります。また，登場人物の心情を捉えたり，慣用句の意味を理解して使ったりすることは，全国平均と比べてあまり差がなく，日頃から読書や音読をたくさんしている成果が表れているといえます。一方で，目的に応じて必要な情報を捉えたり，主語と述語の関係に注意して文章を書いたりする力が低いです。また，既習の漢字を正しく使うことにも課題が見られます。
・国語 B 問題については，目的や意図に応じて，文章全体の構成の効果を考えることの正答率が高くなっています。しかし，話し合いにおいて司会の役割について考えたり，話し手の意図を考えたりする問題で正答率が低いです。「話すこと・聞くこと」に課題が見られます。
・算数 A 問題は，数量の関係を数直線上に表す問題や折れ線グラフから変化の特徴を読み取る問題の正答率が低く，「数量や図形についての技能」において課題があります。
・算数 B 問題の規則性を解釈して解く問題では，正答率が全国平均を上回っており，一定の定着が見られます。また知識を問う A 問題に比べ数学的な考え方を問う B 問題の方が全国平均との差は縮まっています。一方で，場面を表に整理して考えることや数量の関係を考えることにおいて正答率が低く，示された考えを解釈することに対して課題があります。
・理科については，知識を問う問題では，正答率が全国平均を上回ったり，差が少なかったりと，知識が定着していることを表しています。しかし，活用に関する問題の正答率は全国平均を下回り，その中でも，特に「科学的な思考・表現」の正答率が低いです。
・全ての教科において，無解答率が高く，特に記述式の正答率が低くなっています。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

・良い傾向が見られる項目
「人の役に立つ人間になりたいと思う」とした児童の割合が高いです。
「家で，学校の宿題をしている」とした児童の割合が高いです。
「今，住んでいる地域の行事に参加している」とした児童の割合が高いです。
・課題となる項目
「自分には，良いところがある」とした児童の割合が低いです。
「毎日，同じくらいの時刻に寝ている」とした児童の割合が低いです。
「地域などでボランティア活動に参加したことがある」とした児童の割合が低いです。

２　これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

・国語の授業の中で文章を読解する場面を増やし，その文章が誰に対して何が書かれているのかということを読み取る力を育てます。
・課題に対しての考え方を説明するなど，話したり，人の意見を集中して聞いたりする場面を各教科の中で取り入れ，「話す・聞く力」を高めます。
・理科，算数については，授業の中で資料の読み取りを丁寧に行い，何を表している資料か，そこからどんなことが言えるか考えるような授業を行います。
・算数において，数量関係を意識させた授業を行います。数直線を使って数量の大きさを意識させるなどします。
・授業の終わりに学習感想を書く場面を取り入れ，書く力を高めていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

・「家庭学習の手引き」を活用し，落ち着いた環境で学習できるよう，声をかけてあげてください。
・規則正しい生活ができるよう，テレビやゲーム，スマホなど，時間を守って使わせましょう。
・地域の行事に進んで参加できていますので，ボランティア活動などがあったら声をかけてあげてください。「人の役に立つ人間になりたい。」と思っている児童も多いです。
・少しでも頑張りが見られたり，当たり前のことでもできたりしたときには，たくさん褒めてあげてください。「自分にも良いところがあるな。」という自尊感情につながります。